



みんなでつくる情報板 わかやまイベントボード

●防災講演会「地域を守り抜く力！」
紀伊半島に適した防災技術や災害に強いまちづくりに関する研究事例を通して、災害に強い紀伊半島を一緒に考えます。
日時 9月20日(土) 13:00～16:20
場所 和歌山ビッグ愛大ホール
内容 防災教育や防災まちづくり、液状化などに関する講演会、各種実演やポスター展示など
参加費 無料
定員 100名
問い合わせ 和歌山大学防災研究教育センター(073-457-7558)

●和歌山ブルース歌碑建立 10周年記念トーク&ライブ
ブラクリ丁の「和歌山ブルース」歌碑建立から10年が経ったのを記念したイベントです。
日程 9月23日(火・祝) 13:00～16:30
場所 フォルテワジマ
内容 トークセッション、記念歌謡ショー「和歌山ブルースと同時代の歌たち」、和歌山ブルースカラオケ大会、歌謡ショー「今に生きる!和歌山演歌」(宮本静さん、日高光路さん)
入場料 無料
問い合わせ・申込み フォルテ

このほかの情報もたくさん掲載!
「わかやまイベントボード」URL
PC版 <http://eventboard.shiminjuku.jp/>
携帯電話版 <http://eventboard.shiminjuku.jp/m/>

地域で活躍! ママ講師 ～おしゃべり広場ホッピング～

日々の子育てや家事に追われるママたち。毎日家を過ぐし、社会とのつながりを持つ機会が少なくなりがちです。ぶらくり丁にある「おしゃべり広場ホッピング」は、ママたちが集まって情報交換をしたり、イベントや講座を開催するなど、子育て生活を楽しむ過ごしてもらう様々な事業を行っています。その中で昨年4月から始まったのが「ママ講師」という事業。代表の上田茜さんにお話を伺いました。



ホッピング店舗外観

- ママ講師登録会&交流会
日時:9月24日(水) 10:00～12:00
場所:ホッピング
- わくわくリフォームフェア 2014
日時:9月27日(土)、28日(日) 10:00～17:00
場所:ディリパ和歌山
※問い合わせ ホッピング (073-425-8789)

得意分野を生かして
「ママ講師」は、ママが持っている特技・資格を生かし、講師として地域で活動してもらおうというもの。講師は現在約70名が登録しており、ホッピング内はもちろん、企業の展示会や集客イベントで活躍しています。特技や資格は、家庭に入ってから取得する方がほとんどで、アロマセラピーやヨガ、手芸、整理収納、と日常生活に密着したものが中心だとか。取材当日、ママ講師の登録に来られた方のお話を聞くことができました。岩出市から来られた挽田さん。幼稚園年中のお子さんがいます。パステルアートの資格を生かしたく、「自分の作品を色んな方に、手に取って見てもらいたい」と、ママ講師で自身の活動の幅を広げようと

社会に参加しやすいう環境づくりを
上田茜さんが「ママ講師」を始めようと思っただきつかけは、周りのママたちの会話から、子育ての事ばかり飛び交う会話を聞き、「なんで子育ての話題ばかりなんだ、皆社会に通ずるスキルを持っていないの」と疑問を感じたとか。彼女たちの持つスキルを發揮できる場を作ろうと思ったそうです。ママが講師だから、子育て世代に向けた内容という事で決まらず、幅広い世代へこの事業を発信しています。ホッピングの活動については「仕事復帰という形にとられず、ボランティアや趣味など、それぞれのライフステージに応じたママの社会参加のお手伝いができれば」と上田さんは言います。時代のニーズに合った活動をしなが、子育てするママが生き生きと暮らせる社会づくりに日々取り組んでいます。(木下久美)



ママ向けの求人情報や地域イベント情報もたくさん!



講師登録の説明の様子



和やかな雰囲気の講師登録会&交流会の様子

学生が見た、和歌山のNPO 法人

今年もわかやま NPO センターにインターンの学生さんがやってきました。毎年、学生さんには県内 NPO 法人が公開している事業報告書を分析してもらっています。学生さんに県内の NPO 法人はどう映ったのでしょうか?

◆ ◆ ◆
— 調査をしてみて、県内の NPO 活動についてどう思いましたか?

A さん もともと NPO は行政などの手が届かない部分を担うボランティアが多い、という印象を持っていましたが、経済的にも大きな団体もあるということびっくりしました。

また、事業を円滑に回していくためにはボランティアだけでは運営が難しい団体もあるということも知りました。

B さん わたしはじめは NPO=ボランティアという印象を持っていました。しかし、事業報告書を拝見すると、収入がないために思うように活動ができていない団体も少なくないことがわかりました。人を助けるため、だけではお金が生まれにくいのですね。

A 事業をしっかりこなすためにはいい意味でお金を稼げる、仕事を回す団体にならないといけないのかな、と。

B NPO にとっては志が大事なのでしょうけど、「志ひとつ」だけでは活動が難しいので、収入をどうやって得いくのが課題なんです。

— NPO に求められることはなんですか?

A NPO は地域住民を代表する組織の一つとして、地域につながりを生み出すきっかけを生み出すことができるのではないかと思います。いろんな団体と連携を持つ広い視野が必要なのかもしれません。

B 事業収入が少ないがために活動ができなくなってしまうというのはもったいないですね。活動をして、寄付でも会費でも事業収入でもいいので収入を得ることが重要なんでしょうね。

A 行政で公開されている事業報告書だけではその団体がどういう活動をしているかが十分わかりませんでした。

B ブログやホームページもありますが、もっと比較しやすい事業報告になってほしいですね。

◆ ◆ ◆
今年の事業報告書の分析結果などは後日「わかつく」の記事のなかでご紹介します。お楽しみに!

近畿労働金庫社会貢献プロジェクト「すまいる」では「社会貢献預金・すまいる」の災害復興支援コースへの預金総額の0.1%相当額が、東日本大震災復興支援と紀伊半島大水害復興支援の取り組みに寄付されています。この寄付金を活用し、和歌山地区では2年前からわかやまNPOセンターが新宮地区のNPOなどと連携し、ボランティア活動などを実施しています。

【第1回】
10月5日(日) 11時～15時
伊勢路本宮道の修復作業(新宮市熊野川町志古)
水害で浸水の被害をうけた伊勢路本宮道の草刈りや土砂搬入、土砂の流出を防止する柵の設置などをおこないます。
【第2回】
11月15日(土) 11時～15時
熊野川の清掃作業(新宮市熊野川町田長)

年ぶりに営業を再開した「熊野川温泉・さつき」に入浴します(入浴料は主催者負担)。
参加無料。現地集合も合わせた定員は30名。車手・飲料・タオル、必要に応じて着替えなどをご持参下さい。保険付与の関係で、必ず事前にお申し込み下さい。詳細は「すまいる」和歌山・奈良地区のウェブサイトを閲覧下さい。
(<http://www.wnc.jp/smile/>)



今なお爪痕が残る熊野川